



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 152

2018. 4

〒113-0033 東京都文京区本郷2-30-14 文京ビル206号
公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪圭輔

ニュース担当 北川智久

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

次の10年を見つめて

理事長 大坪圭輔

昨年3月に、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領が告示され、高等学校学習指導要領もこの3月末には告示の予定です。「アクティブラーニング」や「キーコンピテンシー」、「三観点」、「教科道徳」、「英語教育の拡充」などのキーワードが、平成28年12月21日の中央教育審議会答申前から多くの場で取り上げられて来ましたが、新学習指導要領の告示に至ってそれぞれの位置や認識が定まった観があります。

日本美術教育連合も「美術教育連絡協議会」の参加団体として、平成26年に『美術教育の充実に向けた要望書』を文部科学大臣及び中央教育審議会に提出するとともに、これまで新学習指導要領についての理解を深めるために、講演会やシンポジウムを開催してきました。そこに登壇された識者の様々なお話を振り返ってみると、「造形美術教育から考える時代の変化に対応した教育の在り方」が大きな課題として浮かび上がってきます。これまで私たちは子ども達を見つめてきました。彼らの真に人間的な成長を促す造形・美術教育を追求してきたと言えます。そして、それは決して間違いではありませんでしたし、その基本は揺るぎのないものです。しかしながら、教育が重要な政策のひとつとして認識され、社会の安定的な発展のための教育が求められるに至って、我々は造形・美術教育の視野をひとつ拡大する必要が出てきました。

無限の可能性を持つ子ども達そのものに対する、これまでと変わらぬ指導者としての深い眼差しとともに、その子ども達を取り巻く現代社会の在り様、そして子どもたちが生きて行く未来の社会や世界を見据えることから、教育の意味を見出し、その目的や方法を考えることが求められています。図画工作や美術で育む資質・能力とは、子どもたちがどのような生き方をしようとも、社会との関わりの中で発揮されるものです。まずは、10年後の子ども達と社会や世界を見つめるところから始めてみましょう。

平成30年度第8回定時総会 招集通知

下記の要領で定時総会を開催いたしますので、会員の皆様はご出席のほどをお願いします。

□日 時：平成30年5月13日（日）13：00～14：15

□場 所：聖心女子大学 宮代ホール

□議 案：・第5期役員選出の件 ・平成29年度事業報告の件 ・平成29年度決算など

詳細は連合ホームページをご覧ください。 <http://insea-in-japan.or.jp/>

昨年まで4月末に定時総会を開催しておりましたが、公益法人を管轄する内閣府の指導もあり、総会議案の公開から総会開催まで十分な時間を取ることを考慮し、本年は5月13日開催となっております。また、ご欠席の場合は、委任状を必ずご送付ください。

□記念講演 14：30（入場無料です。会員以外の方もお誘いあわせの上ご参加ください。）

講演者 上智大学教授 奈須正裕 先生

演 題 「資質・能力の育成と美術教育」

〈第51回 日本美術教育研究発表会2017〉の記録

2017年10月15日（日）東京家政大学板橋キャンパス16号館にて、公益社団法人日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）主催の第51回日本美術教育研究発表会2017を開催しました。49組（うちモジュール1組）の研究発表および135名の参加者は、本会史上最多を記録しました。

発表者の所属（大学院・勤務校は両方カウント）と人数は、幼1、小10、中6、高1、特支1、短大7、非常勤・元を含む大25、博士5、修士5、学部2、美術館1、他2と多彩で、のべ63名でした。



■写真1：開会式会場（上）、挨拶する東京家政大学手島尚人家政学部長（左）と大坪圭輔理事長（右）
開閉会式で結城孝雄・西村德行両理事が挨拶、昼に小林貴史編集委員長が論文投稿の説明をしました。



■写真2：史上最多68名参加の懇親会（上）、持寄り御酒（左）、InSEA2017参加者（中）、祝宴料理（右）
開会の辞は橋本光明運営委員、挨拶は宮坂元裕前理事長、乾杯は仲瀬律久運営委員、閉会の辞は山田一美運営委員が担当。
10余名が御酒寄付、会場は結城理事、2,500円会費で豊かな料理は畑山未央局員、片付けは参加者の多くが協力し、写真は林耕史運営委員、進行は山口喜雄理事が担当しました。

公益社団法人日本美術教育連合主催講演会のご案内

5月13日（日）の定時総会の日、入場料無料の記念講演を開催いたします。
会員以外の方も、お誘い合わせの上ご参加ください。

□記念講演

期 日 平成30年5月13日（日）
時 刻 14：30
場 所 聖心女子大学 宮代ホール
参 加 費 無料
講 演 者 奈須 正裕 先生
演 題 「資質・能力の育成と美術教育」

■演者のご紹介

奈須 正裕（なす まさひろ）先生

（上智大学総合人間科学部教育学科教授）

1961年徳島県生まれ。徳島大学教育学部卒、東京学芸大学大学院、東京大学大学院修了。博士（教育学）。国立教育研究所室長、立教大学教授等を経て現職。専門は教育心理学、教育方法学。中央教育審議会教育課程部会委員。主な著書に『「資質・能力」と学びのメカニズム』（東洋館出版社）、『知識基盤社会を生き抜く子どもを育てる』（ぎょうせい）など多数。

■ご講演内容の主旨

資質・能力を基盤とした学力論に立つと、美術教育は音楽やダンスの教育と共に、感性という学力側面を担う中核的領域であると共に、新たな美的価値の創造、イノベーティブな発想・構想、感性的インスピレーションに根ざしたコミュニケーションなどを、「造形」という活動を通して豊かに、そして楽しく、したがって無理なく経験することができる、ほぼ唯一の領域であることが見えてきます。

また、知的なものも含め、学びという営みが本来的には身体的で感覚的な経験と不可分であるという性格を、小学校以降も最も明確に体現しているのが美術教育だと思いますが、このことは幼児教育との連続性を考える上でも極めて重要です。

また、欧米で注目を集めているSTEMやSTEAMなど、機能と美的造形が一体となった広義のものづくりやデザイン教育の領域における今後の展開においても、美術教育への期待には大きなものがあると言えるでしょう。

講演では、前半で学習指導要領改訂全般についてお話し申し上げ、それを踏まえて、後半では、そこにおける美術教育ならではの独自の貢献の可能性、さらに今後の美術教育に期待したいことを、お話し申し上げたいと思います。

テーマ **新しい学習指導要領を踏まえ、 これからどのような授業実践が求められるか**

2018年1月21日に東洋大学にて造形教育フォーラムが開催されました。今回のフォーラムは新しい学習指導要領を踏まえ、これからどのような授業実践が求められるか、その具体的事例を紹介しつつ、参加者の新学習指導要領についての理解を深めて行こうというものでした。

フォーラムに与えられた時間は3時間。前半は、東京学芸大学附属世田谷小学校教諭の大櫃重剛教諭と、埼玉県朝霞市立第五中学校の飯田成子教諭のお二方に実践事例紹介をして頂きました。

大櫃先生は、それまで勤務していた公立校の図工専科教諭から附属小学校教諭となり、初めて学級担任を受け持つ中で、各教科との連携やコミュニケーションを活かした学びの教育実践についての報告を中心にして頂きました。

一つ例を挙げると、総合的な学習の取り組みで、子どものやりたいことを中心に子どもたち自身が仲間を集め、プロジェクトを進めていく「みんなで〇〇しませんか」という活動です。学級という学習集団を活かし、朝の会で自分がやりたいことをプレゼンテーションし、協力者を募集し企画を進めていくプログラムです。造形美術との関連は、やりたいことの実現のためにイメージを強く持つこと、そして協力者を募る段階でイメージを言葉や絵で伝えること、そして具体的な形を作る段階で相互の制作物などを見ながら更にイメージを広げつくり出すこと。そして他者に見てもらい、評価を得るとともに更に他者を巻き込み広げていくこと。そこには主体的で対話的な深い学びの具現を感じました。事例では小学校1年生の男子児童が木材を組み合わせて立派なギターを製作し、仲間がダンボールでドラムセットをつくり発表会へと進んでいきます。その様子を見ていた他の児童は曲に合わせた振り付けや、それぞれの手作り楽器と友だちを紹介するセリフを考えます。一人の児童が自らやりたいことを進めていく中で、他者を巻き込み、大きな「こと」を実現していく内容でした。

この学びは今までの教科の枠組みでは実現が難しいように思われますが、新教育課程の課題でもある「カリキュラムマネジメント」という点では参考になる点が多く含まれています。また、大櫃先生が図工専科教員から学級担任になったことで気付いた他教科との連携、つまり、学習の中で育む資質能力を軸に各教科の学びを広く連携させ、学習活動を生み出し、どの様に学ぶかの点において学び方を捉え直せたことが、新教育課程の理念の具現化という点でも参考になりました。今回の改訂では、今までの型に収まった教育では無く、しなやかで柔軟な学習活動が、領域・題材を視軸に置いてきた従来の教科観を資質・能力の柱で整理し直すという発想の転換により可能となることを我々に示していただきました。

一方、中学校美術科教員の飯田成子先生は、授業の進め方において、他者との話し合いや、表現と鑑賞の一体化、そこから生まれる実感を核に授業づくりをしているのが印象的でした。

飯田先生の「リラック椅子」の授業は、埼玉県立近代美術館からデザイン性の高い椅子を借りてきて鑑賞授業をすることから始まります。学芸員の解説なども入れながら、生徒は椅子に座ってみるという自分の身体で作品のよさや価値を味わう実感を伴った鑑賞授業が学びのス

タートとして用意されています。そして椅子の機能やよさを感じ取った鑑賞の授業から自分なりのリラックスできる椅子を考えていきます。発想段階では生徒同士の交流を積極的につくり、自分の考えをプレゼンテーションしたり、話し合ったりしながら自分の考えをブラッシュアップしていくとともに、他者の考えや価値観を知っていく学習にもつなげます。発想段階のこのような生徒間での対話が、自分のよさに気づき、そのよさを活かした制作に生徒を向かわせます。制作段階では多様な材料を準備し、無いものは自ら用意させるなど、イメージに合った材料探しをさせます。学習環境にも配慮し、教室の中央に材料コーナーを設け、何時でもすぐに材料にアクセスできる環境を整えています。そして完成した作品は自分の椅子のコンセプトを伝えられる写真になるように工夫して撮影します。

この授業の特徴は開かれた教育課程の事例として美術館との連携が上げられます。地域の教育財産を積極的に活用することで、生徒の視野も学校から外に向かう事になります。また、常に活動の中に選択の問いを与え、その選択において思考・判断・表現の能力を鍛え、発揮させています。例えば、材料の選択や完成作品の写真撮影も選択を迫る活動になります。その選択し決断していくために試行錯誤する場合や、対話的なまなび、それらの時間の確保が十分に考えられている点が特徴的でした。

さて、フォーラムの後半は、参加者からの質問を受けて二人の先生に答えてもらうなどしながら、新教育課程と関連させた議論を深めていきました。その中でいくつか印象に残っている内容を紹介します。一つは、二人の先生がともに「発表」を重視されていることです。成果（作品）発表は美術が個人と社会を結ぶ手段でもあると共に、「生活の中の美術」というキーワードにも関連していきます。生活の中の美術とは日常生活の中にある美術のことを指しますが、見方を変えると生活の中に入れ込むべき美術とも言えます。作品発表を通して自己理解や他者理解が深まり、同時にコミュニケーションを潤滑にさせる美術を社会の中に注入することはまさにこれからの社会全体の課題でもあります。

もう一つは、学びがすべて子どもたちの興味関心から立ち上がっている点です。題材を提示するにおいてもまずは子どもたちの興味関心をどう喚起させ、子どもたちの身体感覚と結びつけ実感的な学びにしていくか、その学びのデザインが二人とも優れている点です。アクティブラーニングは主体的で無ければ本質的な問いの探求には繋がりません。そこに授業デザインの肝がかくれているのです。大櫃先生はやりたいことから学びを作り上げる「みんなで〇〇しませんか」という投げかけであり、飯田先生は身体感覚の実感を伴ったデザイン椅子の鑑賞なのでしょう。

今回のフォーラムでは新学習指導要領の理念を二人の先生の実践を通して具体的に理解出来たのでは無いかと感じております。新学習指導要領では育むべき資質や能力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学習に向かう力・人間性」に絞り明確にするとともに、一方ではその明確になった育むべき資質や能力を題材の連携や、他教科との連携、地域連携など、柔軟な授業設計において学んでいく授業づくりが求められると感じました。そのような点ではまずは教師自身が積極的に他教科や地域社会、今まで手にしなかった材料や人材などにアクセスして道を切り開くことが求められるということを考えさせられるシンポジウムであったと思います。

(文責 三澤 一実)

InSEAに関する情報をお知らせします。

**■InSEA Asia Regional Congress, Hong Kong, 2018
and the 7th World Chinese Art Education Symposium
2018 国際美術教育学会アジア地区（香港）会議
第7回中国美術教育大会**

期 日 2018年12月8日～10日

会 場 香港 香港教育大学

テ ー マ Challenges and Transformations (CT) 挑戦と変容

研究発表申込 2018年3月15日

発表採択通知 2018年4月20日

発表概要提出 2018年8月1日

参加登録料

		InSEA会員	一般	学生／退職者
早期参加申込	7月1日まで	USD 250	USD 300	USD 100
通常参加申込	11月1日まで	USD 300	USD 350	USD 150
当日参加申込	12月8日まで	USD 350	USD 400	USD 200

ホームページ <https://insea-hk2018.org/en/>

■InSEAニュースレターより

The European regional InSEA Congress

国際美術教育学会ヨーロッパ地区会議

・期日：2018年7月18日～21日

・会場：ヘルシンキ アールト大学

・HP：<http://taide.aalto.fi/fi/research/insea/>

InSEA Seminar

Research and Praxis For Social Engaged Arts Education In Southern Europe, Balkan and Mediterranean countries

国際美術教育学会セミナー

南欧、バルカン、地中海沿岸諸国における社会と繋がる芸術教育のための研究と実習

・会期：2018年7月16日～18日

・会場：ギリシャ テッサロニキ

役員 の 改 選 に つ い て

平成30・31年度役員改選

選挙管理委員会 委員長 藤 崎 典 子

公益社団法人 日本美術教育連合 定款25条により役員の任期満了にともなう選挙は、理事会により選出された選挙管理委員長 藤崎典子により、平成29年11月13日現在の有権者に同年12月1日に投票用紙を発送し、同年12月22日当日消印有効を締め切りとし、平成28年1月7日日本美術教育連合事務所に於いて開票作業を行った。開票作業は北澤俊之氏、結城孝雄氏、西村德行氏にお願いした。オブザーバーとして大坪圭輔理事長が参加した。5人で合議の上、結城氏、西村氏が投票用紙に疑義がないかを確認しながら読み上げ、北澤氏と藤崎がカウントし、全員でチェックを重ねてカウント数が一致したので、全ての資料を封入封印して終了した。

平成30年1月21日理事会、運営委員会合同委員会の席上開封し、有効投票、無効投票の確認ののち、最後に実名と票数を合わせ、当選を決定した。

有権者数 222名、投票総数 102票 無効投票数 0票、有効投票数 102票

その結果、以下のようになった。

理事候補者 山口喜雄55票、結城孝雄55票、西村德行51票、
奥村高明49票、大坪圭輔48票、以上

上記の結果、細則5 理事は正会員の投票により、当面の間、投票数上位の者5名とする。

以上は平成30年5月13日（日）開催される通常総会に於いて決定される。

事務局便り

■公益社団法人 日本美術教育連合 発行『日本美術教育研究論集 第51号』

公益社団法人日本美術教育連合では、毎年10月に「日本美術教育研究発表会」を文部科学省の後援をいただき開催しております。この発表会で提案、報告された美術、造形教育に関わる研究、実践の数々が学術論文、実践報告、研究ノートとして提出され、厳正な査読審査を通過して『日本美術教育研究論集』にまとめられて、会員の皆様および関係諸機関に届けられます。

今日の美術、造形教育の多角的、先進的な研究、日頃の実践に裏打ちされた貴重な報告などが1冊に集約された内容豊かな論集です。本年度も、2018年3月末日の発行となりました。すでに、お手元に到着していることと思います。

■平成29年度（2017年度）会費納入、ご協力ありがとうございます。

本会の運営は、公益に帰することを第1の原則として、会員皆様方の貴重な会費によって、成り立っています。この趣旨をご理解の上、会費納入にご協力いただき、心より御礼申し上げます。また、賛助会員の皆様におかれましても、厚く感謝申し上げます。このような皆様のご協力により会費の納入状況が改善され、本年度も研究発表、養成講座、フォーラムとそれぞれ大きな成果をあげることができました。引き続き、会員の皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

しかし、3年連続会費未納入の会員様につきましては、残念ながら「退会」という対応を取らせていただきます。何卒ご入金の協力をお願い致します。また、移動等で住所変更になりましたら、下記のアドレスにてご一報いただければ幸いです。

本年度未納の方は平成29年度会費 6,000円を納入してください。

(公社)日本美術教育連合 郵便振替 00170-1-86036

■お問い合わせ先

事務局 結城 孝雄 〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
東京家政大学 家政学部 児童教育学科 結城孝雄

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

メールアドレスが変わります
info@insea-in-japan.or.jp

本会の公式アドレスとして、
今後使用してまいりますので、
お手数ですが変更等宜しくお
願い致します。

【郵便振替】(公社)日本美術教育連合 口座番号 00170-1-86036

■平成30年度 第9回定時総会 招集通知■

巻頭ページでもご案内いたしましたように、第9回定時総会を平成30年5月13日(日)に開催いたします。多数ご出席いただきますよう、宜しく願いいたします。

■日 時 平成30年5月13日(日) 13:00～14:15

■場 所 聖心女子大学 宮代ホール
東京都渋谷区広尾4-3-1(東京メトロ日比谷線広尾駅より徒歩5分)

■記念講演 予告■

参加費 無料

■期 日 平成30年5月13日(日) 開会 14:30

■講演者 奈須正裕 先生 上智大学 総合人間科学部 教育学科 教授
中央教育審議会教育課程部会生活・総合専門部会委員 他

■演 題 「資質・能力の育成と美術教育」(予定)

■定時総会委任状の提出ご協力について

総会成立に関わり、公益社団法人法によって、厳密に規定されています。ご出席が叶わない場合は、お手数ですが必ず投函していただけますようお願い申し上げます。